

フジテレビ
SDGs アクション リポート
2023

FUJI TELEVISION
SDGs ACTION REPORT 2023



フジテレビは 開局65周年を迎えます。



フジテレビは2024年3月1日に65周年を迎えます。
時代とともにテレビの役割も変わってきていますが、変わらないのは、人々の生活に寄り添い
正しい情報や笑顔、感動を届け続けるメディアであること。
常に新しい価値を追求しながら、コンテンツで時代を彩り
日々の生活を少しでも豊かなものにできたらと願っています。

フジテレビ企業理念

挑戦と創造 challenge and creation

〈フジテレビスピリット〉

楽しいをカラフルに

将来、メディア環境やスタイルの変化が
一層進んでも
フジテレビは「強いコンテンツ」を持ち続ける

フジテレビは、信頼され、魅力ある、多彩なコンテンツを
生活者に届けることで、
人々の人生・社会を豊かにする会社であり続けたい

より多様な価値観が尊重される社会において、
「コンテンツの力で世界中の楽しいをカラフルに彩ること」をめざしていく

トップメッセージ

TOP MESSAGE



SDGsの達成期限は2030年、いよいよ折り返し点を過ぎました。これから一層の加速が求められる中、2022年度はフジテレビにとりましても、SDGs推進に大きく踏み込んだ一年でした。

昨年秋に放送したドラマ『silent』は聴覚障害者がテーマで、せつないラブストーリーは特に若い方々を中心に大きな反響を呼び、社会現象を巻き起こしました。誰もがいきいきと暮らせる社会に向け、障害を持つ方々への理解がより広がっていくことを願っています。

フジテレビは、本業である放送を通じて、SDGsの推進を呼びかけるキャンペーン「楽しくアクション！SDGs」を3年続けて実施しています。前年に続いてこの冬も3週連続で地球環境や生物多様性をテーマにした特別番組を放送した他、レギュラー番組でもSDGs企画を集中的に放送しました。

また、昨年の夏イベントでは、「楽しくアクション！SDGs」ブースを出展して、理解促進に努めた他、国連と連動して各メディアが気候危機を訴える全国キャンペーン「1.5°Cの約束」にも、積極的に取り組みました。

50周年を迎えるFNSチャリティキャンペーンも、ユニセフを通じて世界で厳しい環境におかれた子どもたちを支援してきており、SDGsの多くの目標に合致する取り組みです。「あなせん」や「デジタル紙芝居」等の従来から行っているCSR活動も、未来を担う子どもたちやあらゆる世代の方々に、健康で豊かな生活を送って頂く一助になればと、続けています。

フジテレビは「コンテンツ力」「発信力」というテレビが持つ大きな強みを活かしながら、持続可能な社会の実現をめざして、地道に活動を続けて参ります。

少しでもみなさまのお役に立てるよう、また喜んで頂けるよう、内容を充実させ、企業としての責任を果たしていきたいと考えております。

代表取締役社長

港 浩一



パートナーシップで 伝える、変える

SDGs推進スローガン

📺 伝える、変える

SDGs

— Transforming our World —

「伝える、変える」は、私たちのSDGs推進のスローガンです。
テレビの強みを活かし、創造力と発信力で
世界を変え、SDGsが掲げる
社会課題の解決に努めて参ります。



国連グローバル・コンパクト

WE SUPPORT



フジテレビの親会社フジ・メディア・ホールディングスは2018年4月より国連グローバル・コンパクトに署名しています。

国連グローバル・コンパクトは、国連と民間[企業・団体]が手を結び、健全なグローバル社会を築くための世界最大のサステナビリティ・イニシアチブです。人権の保護、不当な労働の排除、環境への取り組み、腐敗防止の4つの分野10の原則を掲げています。

SDGメディア・コンパクト



フジテレビは2018年12月にSDGメディア・コンパクトに署名し、メディアとしてSDGsの推進に努めることを約束しています。

SDGメディア・コンパクトは、世界中の報道機関やエンターテインメント企業に対し、その資源と創造力でSDGs達成のための活動を促すことを目的とした協力推進の枠組みです。

フジテレビのCSR・SDGs推進体制

フジテレビは、メディア企業としての社会的責任を果たすべく、2006年6月からCSRの専門部署を設け、事業と一体化させながら多岐にわたる活動を行っています。



港社長(中央)とCSR・SDGs推進プロジェクトチームメンバー

CSR・SDGs推進会議／プロジェクトチームメンバー

社長を委員長とする「CSR・SDGs推進会議」の体制は以下のようになっています。社長・役員・局長が出席する「CSR・SDGs推進会議」を年1回開催し、年度の活動報告並びに次年度の活動方針を審議しています。また、各部局から集められた約60人の社内横断組織(プロジェクトチーム)を構成し、そのメンバーとともに活動を実行しています。役職・年齢等に関係なく多様な人材が集まることで、より豊かな発想とアイデアが生まれ、数多くの企画が実現しています。メンバーを毎年入れ替え、社内のCSR・SDGsに対する理解の浸透を図っています。



CSR・SDGs推進体制

CSR・SDGs推進会議(審議・決定)

CSR・SDGs推進プロジェクト(企画・立案)

CSR・SDGs推進会議:年1回

CSR・SDGs推進プロジェクトチーム会議:月1回

[活動例]



福島に桜の苗木を植樹



お台場美化活動



出前授業

誰もが生きづらさを感じない社会をめざして…

木曜劇場 **silent**

2022年10月6日～12月22日 毎週木曜 22:00～22:54放送



ドラマを通じて障害のある方への理解を広げる

『**silent**』(サイレント)は、主人公が聴覚に障害を持つかつての恋人の心の葛藤と、それに寄り添い、乗り越えようとする姿を丁寧に描いた恋愛ドラマです。せつなくも温かいラブストーリーが大きな反響を呼び、TVer等での「見逃し配信」の総再生数が民放歴代最高の計6,191万回を超えるなど、多くの方々に届けることができました。ドラマを通じて、これまであまり知られていなかった聴覚障害を持つ方の日常について理解を広げるきっかけとなりました。

このドラマには、ろう者の俳優、江副悟史さん、那須映里さんも出演しています。

STORY

主人公の紬が、本気で愛するも別れることになってしまった高校時代の恋人・想と8年の時を経て偶然の再会を果たし、そこに待ち受けていた現実と向き合いながらも、寄り添い、乗り越えていこうとする姿を丁寧に描いていくラブストーリー。音のない世界でもう一度“出会い直す”ことになった二人と、それを取り巻く人々が織り成す、せつなくも温かい恋愛ドラマ。

【主なキャスト・出演者】

川口春奈、目黒蓮(Snow Man)、鈴鹿央士、桜田ひより、板垣李光人/夏帆/風間俊介、篠原涼子

●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/silent/>

『silent』がもたらしたもの

「“苦しい気持ち”知ってもらえた」手話言語に興味も

ドラマを観た聴覚障害者の感想

手話言語の表現や、日常の動作まで細かいところもきちんと描けていて感動しました。中途失聴の人たちの苦しい気持ちも知ってもらえたと思います。実際、中途失聴になり、苦しくて自分から恋人に別れを告げたという話を聞くことがあります。ドラマでは、聞こえる人と聞こえない人が最終的に分かり合えたのが、とてもよかった。私の周りの反応も変わりました。「手話言語での表現ってこうでしょ?」と声をかけてくれるようになったんです。手話サークルの加入者も多くなり、手話言語に興味を持ってくれる人がとても増えています。



全日本ろうあ連盟理事 嶋本恭規さん

解説放送バージョンも制作・公開

このドラマは、音がないシーンが多いこともあり、ト書きや情景描写などをナレーションで説明する「解説放送版」も制作しました。フジテレビのドラマで配信でも解説放送をつけるのは初めての試みです。解説放送は、視覚障害のある方々にも放送内容を理解できるよう制作されており、副音声で聞くのが一般的です。今回は、TVer配信において『silent』の通常版に加えて解説放送版を公開。これまであまりクローズアップされることがなかった解説放送の認知を広げました。



TVerでは通常版と解説放送版を公開

若い制作陣が活躍

『silent』の脚本を務めたのは2021年度の「フジテレビヤングシナリオ大賞」で大賞を受賞した生方美久さん。実はドラマが放送された年の8月まで、看護師として働いていました。コンクール出品以外の脚本を一度も書いたことのない生方さんが木曜劇場で完全オリジナル作品での脚本家デビュー。更にこの作品の演出を務めた風間太樹監督も31歳と若く、ゴールデン・プライムタイムの連続ドラマの演出を担当するのは初めてでした。



風間太樹監督

若手脚本家の発掘を続けて34年 フジテレビ ヤングシナリオ大賞

左から) 井本智恵子さん(佳作)、市東さやかさん(大賞)、
本山航大さん(佳作)、伊藤優さん(佳作)

「ヤングシナリオ大賞」は、若手脚本家の発掘をめざして1987年に設立されたシナリオコンクールです。若手脚本家の登竜門とも呼ばれ、野島伸司さんや坂元裕二さんをはじめ数多くの作家を輩出してきました。33回目の大賞を受賞したのが、『silent』の脚本を手掛けた生方さんです。そして、34回目となる2022年度は応募総数1,535編の中から市東さやかさんの作品「瑠璃も玻璃も照らせば光る」が大賞に選ばれました。これからも若い才能を発掘すべく、この制度を継続していきます。



南極プロジェクト ~地球のミライ~

第64次南極地域観測隊に同行取材 今、地球に起きていることを多角的に発信



共同テレビ 坪谷健太郎カメラマンディレクター(左) /
フジテレビ 大塚隆広記者(中) / 芹澤将也カメラマン(右)

2022年11月～2023年3月にかけて、第64次南極地域観測隊*にフジテレビ取材班が同行しました。フジテレビが南極観測隊に同行するのは初めてのことで、現地でのモニタリング観測、調査・研究活動に密着した他、基地での生活、南極の自然等を取材・撮影し、報道・情報番組、FNNプライムオンライン、BSフジ、ニッポン放送、扶桑社、産経新聞等、多様なメディアで多角的に発信しました。

*日本の南極地域観測は1955年の閣議決定に基づき、国の事業として実施しています。1956年に第1次南極観測隊の派遣が決定し、1957年に昭和基地を開設以来60年以上にわたり南極観測を続けています。



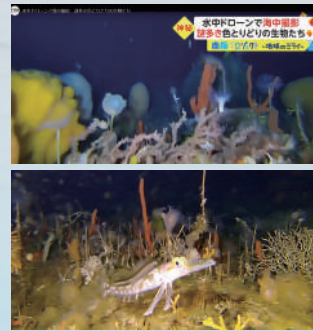
水中ドローンで南極の海底の撮影に成功！

日本のテレビ局として初めて、昭和基地周辺の海に水中ドローンを投入し、撮影に成功。マイナス2度前後の水温と厚い氷に阻まれ、これまで撮影できな



かった南極の魚が泳いでいる姿をカメラに収めました。

厚い氷の裏側で息する無数のイソギンチャクや、南極海固有の魚であるメガネカモグチウオが優雅に泳ぐ様子を撮影することに成功。「餌の捕食」シーンや北の浦というオングル海峡の海底の生き物の様子を初めて撮影でき、学術的にも貴重な映像となりました。



メガネカモグチウオ



400年前の氷の採取に密着取材

深さ30mにある400年前の氷(アイスコア)を掘削機を使って採取するチームに10日間密着しました。アイスコアの中には数千年～数万年前の空気が含まれていて、これを日本に持ち帰って気候変動の影響などについて調査するというのです。今回、積雪断面の中に氷の板が混じっていることを確認。

これは、南極大陸で一時的に氷が解ける異常気象が起きた痕跡で、温暖化の影響なのか、更に調査・分析を行う予定です。



ガチャピンが南極に初上陸！

『イット!』のお天気キャスターガチャピンや『めざまし8』のエイトちゃんも取材陣の一員として南極に初上陸! 空撮ドローンで壮大な南極の風景を生中継しました。



昭和基地から50km内陸に位置するH15観測拠点からガチャピンが衛星中継で登場。また、朝の情報番組『めざまし8』では、新キャラクターエイトちゃんが観測隊員たちに同行し、番組のお天気コーナー内で南極の貴重な画像を毎日視聴者に届けました。

■期間

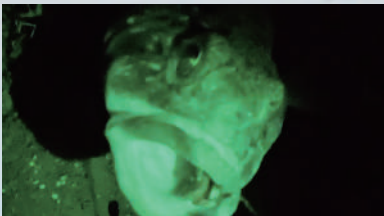
南極の昭和基地を拠点とした取材活動 …… 2022年12月22日～2023年2月7日の48日間
南緯55度以南のいわゆる南極域滞在期間 …… 2022年12月6日～2023年3月14日の99日間
出発から帰国するまで …… 2022年11月11日～2023年3月22日の132日間

■放送実績

地上波:『めざましテレビ』『めざまし8』『FNN Live News days』『Live News イット!』『FNN Live News α』等多数
FNNプライムオンライン:特集「南極プロジェクト」
https://www.fnn.jp/subcategory/nankyoku_project
その他、BSフジ・ニッポン放送・扶桑社:SPA!・ESSE・grape(オンラインメディア)

南極取材班が撮影した映像は、400時間以上!
貴重な映像資料としてフジテレビのアーカイブに保管する他、調査等に役立ちます。

その他の調査・観測 同行取材



極寒の海に生息する魚たちの日々の行動パターンを解析するため、発信器を取り付けてデータを収集。夏に何を食べているのか、冬は冬眠状態になっているのか、今後の調査で明らかになります。

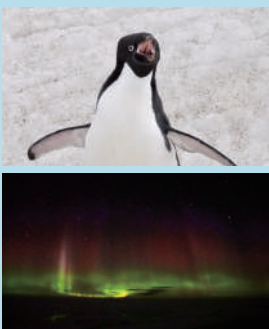


MONACA(水中ロボット)で氷の解けるスピードを調査。日本の観測隊では初めてAUV水中ロボットを導入。水中ロボットは、昭和基地周辺のラングホブデ氷河の氷の下を世界で初めて潜行・調査に成功しました。



昭和基地では、CO₂濃度を観測しています。2022年は、観測史上最高となる見通し。南極は、人の活動によるCO₂の排出がほぼないなど、長期の濃度の観測に適している、国立極地研究所は、1984年から観測を続けています。

南極取材を体験して [大塚隆広プロデューサー]



南極は、どこを見渡しても美しく、壮大な景色だった。内陸部に行くと、生命の存在が全くない世界が広がり、そこでブリザードを経験し南極の恐ろしさを体感した。そんな過酷な世界で観測隊は毎年調査研究を続けている。南極で発見されたオゾンホールの問題を機に、世界が一致団結して解決に向かっていくように、温暖化と異常気象の問題も、南極での調査研究によって原因がわかり、地球の未来を正確に予測することができれば、世界がひとつになって解決に向かうことにはのではないかと考える。



大塚隆広 1995年フジテレビ入社 報道カメラマン、社会部記者、ベルリン支局長などを歴任。地球環境への危機意識から発信を続け、気候変動の影響を受けた人々の暮らしを追うドキュメンタリー『環境クライシス』等を手がける。

テレビの力で SDGsを自分事に



数々のレギュラー番組でSDGsを伝える

「楽しくアクション!SDGs」は、フジ・メディア・ホールディングス傘下のメディア企業が集結して、2021年にスタートしたSDGs推進プロジェクトです。アンバサダーはEXITが務め、フジテレビ・BSフジ・ニッポン放送の3社がそれぞれの強みを活かして、持続可能な社会に向けた発信を行っています。今、地球上で起きていることを「伝え」、ひとりひとりがアクションを起こす「きっかけ」をつくることをめざして数多くの番組を制作・放送しています。フジテレビでは、映像が持つ人の心を動かす力と発信力を駆使し、このままいくと地球はどうなってしまうかなど、報道・情報番組など多様な形で伝えました。また、ひとりでも多くの方に見て頂けるようTVer、FODなど見逃し配信も積極的に行いました。

●公式サイト https://www.fujimediahd.co.jp/sdgs/enjoyaction_sdgs/

3週連続で特別番組を放送!

2023年1月21日～3月10日にかけての約2ヶ月間は、フジテレビにおける推進強化月間とし、以下の3つの特別番組をはじめ多数の持続可能な未来に向けた番組を視聴者に届けました。

1st
WEEK



環境クライシス 嘆きの島々と崩壊する海

環境危機によって失われつつある人々の営みや風景を特集するドキュメントシリーズ第4弾。以前取材した沈みつつある島に住む少女は、今どうしているのかを追跡取材。国内編では、変わる沖縄の海洋環境や島人の生活取材・放送しました。
[2023年1月21日 14:30～15:30放送] (関東ローカル)

2nd
WEEK



EXITの未来を本気で考えるIII フューチャーランナーズSP

生物多様性をテーマにEXITが井の頭池で在来種を守る取り組みを体験。また、都心に住む野生のたぬきの生態を紹介したり、学習院大学生物部の活動等を通じて、今、生き物に起きていることをわかりやすく伝えました。
[2023年1月28日 14:30～15:30放送] (関東ローカル)



3rd
WEEK



地球HEROES 2023

りんたろー。と兼近が生態系を守るために奮闘する“ヒーローたち”を直撃すべく、最北の動物園と最南の水族館へ! 地球をレスキューする取り組みを伝えました。
[2023年2月4日 14:30～15:30放送] (関東ローカル)



SDGsのレギュラー番組

4本のレギュラー番組・月1の企画でSDGsを伝えています

テレビの強みである「発信力」と「クリエイティブ力」を活かして、SDGsをわかりやすく発信！
社会課題が認知されアクションを起こすきっかけになればと考えています。



2018年7月～これまでに240人以上を取材
[フジテレビ 毎週水曜22:54～23:00放送] (関東ローカル・関西テレビ)
[BSフジ 毎週土曜21:55～22:00放送]
●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/futurerunners/>

『フューチャーランナーズ～17の未来～』

世界初のSDGsをテーマにしたレギュラー番組『フューチャーランナーズ』を、2018年7月から制作・放送しています。SDGsの課題解決に向けて熱心に取り組む人たちの、行動を起こすに至った背景や想いとともに毎週紹介しています。

より多くの方々に
届けるために…

- ・毎回 英語字幕付きで放送
- ・公式サイトですべての放送回をアーカイブ化
- ・FNNプライムオンラインで記事化

FNN
プライム
オンライン



『サステイナ!』

ファッションやグルメ等の身近な話題から最新の取り組みまで、SDGsを楽しく学べる情報バラエティを全国ネットで放送しています。

MC:倉科カナ・SHELLY・神尾楓珠
[毎週土曜9:55～10:25放送] (全国)
●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/sustaina/>



『体感! サステナWAVE』

アナウンサーが、サステナブルな取り組みを体感! 不要品をアップサイクルしたり、無駄をなくす再利用法をご紹介。SDGsを自分事として捉えてほしいという思いで放送中。

[毎週月曜22:54～23:00放送] (関東ローカル)
●公式サイト https://www.fujitv.co.jp/sustaina_wave/



『地球との約束 ～心に刻む景色～』

日本各地の多様な風景から、毎回1ヶ所を取り上げ紹介するミニ番組。美しい映像と自然が奏でる音…その風景を守る活動にもフォーカスします。

[毎週火曜22:54～23:00放送] ※2023年1月10日スタート
(関東ローカル・NST新潟総合テレビ)
●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/chikyuu/>



『めざまし8』

「楽しくアクション! SDGs」のアンバサダーを務めるEXITが月1回のレギュラーコーナーで様々な社会を変える取り組みを取材し、スタジオでプレゼンテーションしています。

[毎週月～金曜 8:00～9:50放送]
●YouTube <https://youtu.be/s7GyBchtjbo>



『GO!GO!チャギントン』

子どもたちに大人気のチャギントンの番組内で、SDGsについて親子で学べるコーナーを月1回放送しています。

[毎週日曜 6:15～6:30放送]
●公式サイト
<https://www.fujitv.co.jp/chuggington/>



『潜入! リアルスコープ -SDGsな食卓SP-』

“大人の社会科見学”をコンセプトにした人気番組にSDGsの視点をプラス。身近な食べ物にも意外なSDGsの取り組みがありました。

[2023年3月10日 20:00～21:58放送] (全国)

メディアの枠を超えて

未来を変えるために
日本のメディアがいっしょに動きました！



#いのちともに守る



1

「1.5°Cの約束」いまずぐ動こう、気温上昇を止めるために



「SDGsの目標を達成するにはメディアの協力が不可欠」という認識の下、国連はSDGメディア・コンパクトという、メディアのみを対象としたSDGs推進の枠組みを設けました。そのメディア・コンパクトに、世界中で一番多く参加しているのが日本(日本国内のメディア約200社)。そこで、日本の国連広報センターとSDGメディア・コンパクトに署名する日本メディアが話し合いを重ね、気温上昇を止めるためのアクションを広げるためのキャンペーンを企画。結果的に146社(2022年)が参加する、世界初の共通キャンペーンとなりました。

1.5°C目標とは？

産業革命前と比べた世界の平均気温の上昇を1.5°Cに抑えないと、地球は人が住めない場所になってしまうという危機感のもとに合意された世界共通の目標。もうすでに1.1°C上がってしまっているため、対策を急ぐ必要があります。

● 共通動画を作成し、各局のプラットフォームやTVerで展開

2分半バージョン <https://youtu.be/NWwPbZkwGxM>

10分バージョン <https://youtu.be/KXAJ1a4k-cE>



● NHKに各局キャスターが集結し特別番組を放送



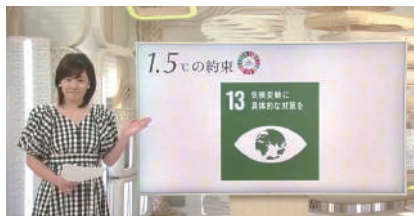
『1.5°Cの約束 いまずぐ動こう、気温上昇を止めるために』

民放・NHKキャスター6人が集結する特別番組を、9月25日にNHK総合テレビで放送しました。科学者の江守正多さんや高校生の原有穂さん(Fridays For Future)も参加し、各局が取材した企画を紹介しながら、気候変動の現状についてわかりやすく伝えました。

[2022年9月25日 10:05~11:00放送]

● レギュラー番組でも気候変動について数々の企画を放送

フジテレビでは、『Live News イット!』や『めざまし8』で気候特集が展開された他、『めざましテレビ』『FNN Live News α』でも温暖化を防ぐためのアクションが紹介されました。



2

民放NHK6局防災プロジェクト #いのちともに守る

#いのちともに守る



「#いのちともに守る」は、防災・減災を目的とした共同プロジェクトです。きっかけは、東日本大震災から10年となる2021年3月にNHKとフジテレビの呼びかけで在京6局の担当者が集まり、防災について考える共同プロジェクトを立ち上げたこと。以来、6局の担当者が定期的に議論を重ね、どうすれば災害時において自分と大切な人の命を守ることができるか、そのための取り組みを真剣に考えています。3年目となる2022年度は首都直下地震等、大地震への備えを訴える30秒の動画を6本制作、2022年9月1日の「防災の日」前後に、6局の番組・ニュース・ネット・イベントで流しました。

震災を風化させないために以下のような番組を放送

●『わ・す・れ・な・い 映像教訓 巨大地震から生き延びる』



未曾有の災害を忘れず教訓とするため、12年にわたり放送してきたシリーズ「わ・す・れ・な・い」。2023年も巨大地震の揺れに注目し、どうすれば命を守ることができるか、映像検証を通して考えました。福島県では津波や原発事故の他、実は震度6強の揺れが前代未聞の事態を招いたこと。また、大都市での避難行動の難しさを横浜市の「あの日」の映像から検証、更に、関東大震災での津波被害にも触れ、112歳になる生き証人の貴重な証言を放送しました。

[2023年3月11日 14:30~15:55放送]

●『明日をまもるナビ いのちともに守る』



※フジテレビからは、司会の伊藤利尋アナ・木村拓也アナが出演

民放・NHKのアナウンサーが一堂に会し、防災番組を放送しました。今回は防災学習施設「そなエリア東京」等2ヶ所で、「首都直下地震」を想定したリアル防災訓練を実施。「相次ぐ大きな揺れ」「迫りくる火災」「目の前にいる要救助者」にどう対応すべきか、実際に起こりうる状況を体験しました。更に、訓練のあとNHKのスタジオに集まった6人のアナウンサーが、伊藤利尋アナ、塚原愛アナ(NHK)の司会のもと、災害時“テレビは何を伝えればいいのか”を徹底討論しました。

[2023年4月2日 10:05~11:00放送]

3

「国際女性デー」#自分のカラダだから

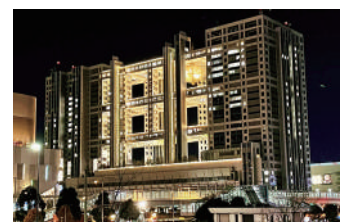


NHK及び民放各局(日本テレビ・テレビ朝日・TBS・テレビ東京・TOKYO MX)と連携し、国連が定める「国際女性デー」(3月8日)にあわせて、女性の体と心や生き方について考える発信を集中して行うキャンペーン「#自分のカラダだから」に参加。2月~4月にかけて、#自分のカラダだから #国際女性デー を掲げ、女性の健康や生き方をめぐる様々な課題や解決に向けた手がかりを、放送やインターネットで取り上げました。

フジテレビでは、アナウンサー8人が「国際女性デー」にからめたインタビュー記事を自ら執筆、FNNプライムオンラインで公開しました。また、8日当日はキャスターが黄色の服を着て番組に出演。社屋をキャンペーンカラーのイエローにライトアップしたり、『フューチャーランナーズ』でもフェムテックに関する内容を放送しました。



キャスターがイエローの服を着て出演



社屋をイエローにライトアップ

イベントを通じて

「オダイバ冒険アイランド2022」 楽しくアクション! SDGsパーク

新型コロナウイルスの影響で見送られていたリアルでの夏イベントが、3年ぶりに開催されました。フジテレビ本社ビル1階広場に巨大テント「楽しくアクション! SDGsパーク」が登場! 環境に配慮した様々な企画や、楽しみながらSDGsを学べるクイズラリー等を実施しました。

- 開催日程 : 2022年7月23日~8月28日 ※37日間
- 総来場者数: 731,009人



広場に設置されたテントの電源は、一部がソーラー発電でまかなわれ、また、空気から水を生み出すオフグリッドトレーラーボックスやテーブルハウス等、SDGsを推進する装置を体感して頂きました。テント内は、ショップや飲食可能な休憩スペースとなっており、猛暑の中、お客様が快適に過ごせる空間を提供しました。



オフグリッド
トレーラーボックス



テーブルハウス
オフグリッド

テーブルとイスと屋根が一体となった屋外型テーブルセットで、食事や休憩時にご利用頂きました。また屋根にはソーラーパネルを貼り、イスの下にあるリチウムイオン蓄電池で2.4kWhの大容量で電気を貯め、携帯電話等の充電を体験して頂きました。

■ 電子ごみをアートに ■

「長坂真護展 Still A “BLACK” STAR」を開催



東京・上野の森美術館
開催期間: 2022年9月10日~11月6日
来場者数: 19,431人



「我々の豊かな生活は、スラム街の人々の犠牲のもとに成り立っている」という不条理な現実を、アートの方で伝える長坂真護

投棄された廃棄物を用いて作品を制作し、ガーナのスラム街を再生させるプロジェクトを進める美術家・長坂真護の個展を、上野の森美術館で開催しました。

サステナブルな世界をめざす彼の足跡とともに、新作を含む約200点を展示。作品には、先進国が出した大量の電子ごみが途上国に送られている現状や廃棄社会への危機感、また、世界平和を願う思いが込められています。

SDGsを楽しく学べる クイズラリーを実施!

会場内にSDGsの17の目標に関連するクイズを点在させ、全問解答した方全員にSDGsアンバサダーを務めるEXITのオリジナルクリアファイルをプレゼント。家族連れや若者など大勢の方が参加してくれました。

参加者数:37,625人



クイズラリー用紙:適切に管理された森林の生産品であることを示す「FSC認証」を取得

クリアファイル:廃棄プラスチックを活用した再生率70%のPP素材

GAKU in ODAIBA

エントランスロビーに自閉症アーティストGAKUの作品28点を展示しました。極彩色の作品群に埋め尽くされた空間は来場者の興味を強く惹き、多くの方が足を止めて見入っていました。



地球にも人にもやさしい取り組みを随所に



エコな容器 バガスモールド

J01とコラボしたハットグを、砂糖が生産される過程で発生するサトウキビの絞りカス「バガス」を有効利用したエコ容器「バガスモールド」で提供することでプラ削減に貢献



オリジナルうちわ制作・配布

国連とメディアで展開する「1.5度の約束」キャンペーンのうちわ8,000枚を制作・配布。気候変動を止めるための10のアクションが見られるQRコードを記載



WOTAの設置

人にも地球にもやさしい循環型手洗いスタンドWOTAを設置。水道のない場所でも、使用した水の98%以上をその場で循環・再生、常に安全な水を供給



7分別のごみ回収

ごみは、紙ごみ、プラスチック・ビニールごみ、ペットボトル、ペットボトルキャップ、ビン・缶、割りばし・木串、食べ残しの7分別で回収。キャップは、「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」へ寄付

アートの売り上げでスラムをなくすための活動を展開

“世界最大級の電子機器の墓場”と呼ばれるガーナのスラム街・アグボグブロシーで長坂さんが直面したのは、日本を含む先進国から出される廃棄物を燃やし、わずかな日当で生きる人々の姿、そして、有害なガスによって若くして命を落としているという現状でした。

アート作品の売り上げ金で、これまでに1,000個以上のガスマスクをガーナに届け、2018年にはスラム街初の私立学校を設立。そして、現在アグボグブロシー初のリサイクル工場を建設しています。現地の若者たちを雇い、電子ごみからプラスチックパーツを取り出し、専用の機械で破碎。プラスチックの再資源化を実現するとともに、雇用の創出をめざしています。



画像は本人のフェイスブックより



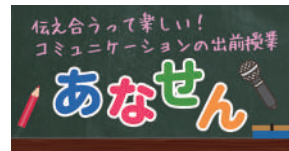
次世代育成支援

Support for the Next Generation

アナウンサーによる出前授業「あなせん」

“伝えるプロ”が子どもたちの伝え合う力を継続サポート

「あなせん」(アナウンサー先生)は、2005年にアナウンサーが主体となってスタートした小学生を対象にした出前授業です。デジタル世代の子どもたちにface to faceで伝え合うことの楽しさを知ってもらうとともに、コミュニケーション能力の向上につながればとの思いで実施しています。



プロジェクト概要

対象:小学校3年生~6年生
講座内容:[スピーチ][インタビュー][音読]
実施エリア:関東1都6県



島田彩夏アナ

2022年度は **21校 約1,718人** に対して実施 (2023年3月末現在)

東京都

千代田区立昌平小学校
葛飾区立南綾瀬小学校
葛飾区立飯塚小学校
江東区立東川小学校
練馬区立光が丘四季の香小学校
港区立芝浜小学校
江東区立浅間竪川小学校

千葉県

成田市立本城小学校

埼玉県

羽生市立川俣小学校
深谷市立豊里小学校
羽生市立村君小学校
茨城県

水戸市立梅が丘小学校
古河市立西牛谷小学校

神奈川県

相模原市立東林小学校
横浜市立黒須田小学校
横浜市立中田小学校

静岡県

三島市立南小学校
沼津市立原小学校

和歌山県

和歌山市立藤戸台小学校



子どもたちから届いたお手紙

18年間の合計は、287校 約2万2,618人

『あなせん』とコラボした取り組み

学研ことばパーク



学研の夏休み期間の特別イベントとして、「オンライン講座 フジテレビアナウンサーのめざせ“伝え方”マスター」を実施

ダヴィンチマスターズ



子どもたちの非認知能力向上のために生まれた一般社団法人「ダヴィンチマスターズ」のイベントで「あなせん」の出前授業を実施

パナソニック・KWN



パナソニックの映像制作支援プログラム キッド・ウィットネス・ニュース(KWN)に、フジテレビと関西テレビが講師として参加

食育出前授業「ハロー！どっこくん」

季節の食材をバランスよく食べることや排泄、運動の大切さを教える食育出前授業を行っています。アナウンサーによる、うんちのキャラクター「どっこくん」の大型紙芝居の読み聞かせや、「どっこくん体操」等で構成されたプログラムを全国各地の幼稚園、保育園やイベント等で実施しています。

2010年にスタートし、これまでに195ヶ所、約23,500人を対象に行いました。

鹿児島県鹿児島市[7月3日] 愛知県名古屋市[10月18日] 神奈川県横浜市[11月9日]で実施



どっこくんの冒険を通じて「旬の野菜」も楽しく学習！

「かけはしプロジェクト」

小学校の先生方から「メディアリテラシーやテレビの仕事についての疑問に答えるキャリア教育の場を設けてほしい」との要望を受けスタートした「かけはしプロジェクト」。授業でメディアや情報について学ぶ小学5年生の子どもたちから、テレビについての質問を動画で送ってもらい、各部署のスペシャリストが動画でお答えする取り組みです。また、コロナの影響で登校できない中国・上海にある日本人学校の子どもたちに対し、「あなせん」と「かけはしプロジェクト」を合体させたオンライン特別授業を開催しました。

中国・上海日本人学校[2022年7月26日実施] (オンライン特別授業)
横浜市立綱島小学校[2023年2月17日実施]



「デジタル紙芝居」

コロナ禍におうち時間を楽しんでもらいたいという思いから、2020年にスタートした、おうち応援プロジェクト「デジタル紙芝居」。フジテレビの美術担当者によるオリジナルの作画とアナウンサーの朗読による8作品を、フジテレビのYouTubeチャンネルやHPで公開しています。より多くの方に楽しんで頂けるようFNS系列局のアナウンサーとコラボレーションした作品を新たに3つ制作しました。

- ・注文の多い料理店
- ・ごん狐
- ・賢者の贈り物
- ・シンデレラ
- ・ブレーメンの町楽隊
- ・蜘蛛の糸
- ・手袋を買いに
- ・はだかの王様

●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/csr/kamishibai/>

●コラボ公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/csr/kamishibai/fnscollaboration.html>



「そらぷちキッズキャンプ」

北海道の滝川市にある難病の子どもたちのための医療ケア付きキャンプ場「そらぷちキッズキャンプ」と、全国各地の病院をオンラインでつなぎ、北海道の自然を感じてもらうイベントを初めて実施しました。フジテレビは当団体の活動趣旨に賛同し、2009年から朗読会や食育イベント等を開催しています。コロナ禍で外出が厳しくなっている11の病院や施設で闘病中の子どもたちに向けて、今湊敬樹アナウンサーがオンライン中継で子どもたちと交流しました。

[2023年1月26・27日実施]



北海道から病院に届けた雪に触れ 笑顔の子どもたち

他団体とコラボした活動

東京文化会館とコラボ授業



東京文化会館のアウトリーチ活動とコラボし、音楽の演奏とアナウンサーの朗読を合わせたプログラムを2016年から実施しています。

練馬区立豊浜小学校/立川市立第四中学校
[2022年6月17日・2022年12月16日実施]

B4S主催「コエール2022」



親を頼れない環境で育った経験を発信するイベント「コエール」の本番のサポート及び、アナウンサーがスピーチ指導を行いました。

(NPO法人ブリッジフォースマイル主催)
[2022年5月22日(指導)・7月2日(イベント)]

武蔵野プレイスでアナ体験



東京都武蔵野市にある武蔵野プレイスで奥寺健アナが特別授業を実施。小学4-6年12人が、デジタル紙芝居「ごん狐」の映像を使って朗読を体験しました。[2022年12月13日実施]

「ハーティープロジェクト」



産経新聞社・あけみちゃん基金とコラボし、入院中の子どもたちに楽しい時間を提供するプロジェクト。『めざましテレビ』のコーナー「きょうのわんこ」を活用したプログラムを実施しました。

[2023年3月8日実施]

共創SDGs出張授業



100年後の良い未来のために様々な企業・団体とともに小学校で授業をする共創SDGs出張授業に参加しました。

(NEXT100主催)
[2023年3月9日実施]

ムックとおしゃべりですぞ～ 大阪・関西万博とSDGs



2025年の万博を皆で創り上げていくために、ムックが多様なゲストとSDGsや企業の取り組みを紹介するオンライントークイベント「EXPO PLL Talks」のMCを務めています。

第33回高松宮殿下記念世界文化賞

世界の優れた芸術家を顕彰する「高松宮殿下記念世界文化賞」(主催・公益財団法人日本美術協会=総裁・常陸宮殿下)の第33回授賞式典が10月19日、明治記念館で行われました。1997年からは若手芸術家を支援する制度を設け、第25回はクロンベルク・アカデミー財団(ドイツ)に贈られました。フジテレビはこの顕彰制度の趣旨に賛同し、創設以来、社を挙げて支援しています。

高松宮殿下記念世界文化賞

PREMIUM IMPERIALE

IN HONOUR OF PRINCE TAKAMATSU



ギドン・クレメールとリハーサルを行う岡本誠司ら学生 2022年 Kronberg Academy © Patricia Truchsess von Wetzhausen



©日本美術協会/産経新聞
第33回受賞者と国際顧問



©日本美術協会/産経新聞
常陸宮妃華子さまご臨席のもと、3年ぶりに開催された授賞式典

絵画部門：ジュリオ・パオリーニさん (イタリア)
彫刻部門：アイ・ウェイウェイさん (中国)
建築部門：妹島和世+西沢立衛/SANAA (日本)

音楽部門：クリスチャン・ツィメルマンさん (ポーランド/スイス)
演劇・映像部門：ヴィム・ヴェンダースさん (ドイツ)
若手芸術家奨励制度：クロンベルク・アカデミー財団 (ドイツ)



地球環境のために

For our Planet

合同清掃活動

フジ・メディア・ホールディングスでは、有志による合同清掃活動を2012年より継続しています。

2022年度は5月・10月・3月に実施。

5月30日は、ご(5)み(3)ゼロ(0)にちなんで「ごみゼロの日」の清掃活動を、FNS系列局とともに全国規模で行う初めての取り組みとなりました。各地を訪れる人たちに快適に過ごして頂けるよう、地域の美化に貢献しています。

[2022年5月30日・10月11日・2023年3月10日実施]



サザエさんも清掃活動に参加
©長谷川町子美術館



地域とともにやっている活動

「花と緑のフラワーフェスタ」& 清掃活動に参加

2022年11月、フジテレビ本社ビル裏手のシンボルプロムナード公園で「花と緑のフラワーフェスタ・チューリップ球根植え」を行いました。これは東京都臨海副都心まちづくり協議会が、環境プロジェクトの一環として毎年行っている活動です。フジテレビからは17人が参加、春には見事な花を咲かせました。また、2023年3月には、シンボルプロムナード公園周辺での清掃活動にも12人が参加、地域と連動した活動にも積極的に取り組んでいます。



花と緑のフラワーフェスタ[2022年11月28日実施]



花と緑のおもてなしプロジェクト[2022年6月24日実施]



清掃活動[2023年3月15日実施]

お台場環境行動宣言

フジテレビは、気候変動が地球規模の課題となる中、放送の公共的使命と社会的責任を強く認識し、番組やイベント等を通じて、地球環境の保全と、脱炭素社会の実現に努めてまいります。

伝える、まもる



テレビの強みである創造力と発信力を活かし、番組やイベント等を通じて、気候変動の現状を伝え、地球環境の保全を呼びかけます。



臨海副都心の自然環境や海洋資源、生態系の保全に向け、地域コミュニティ、行政等との連携・協力を強化し、住み続けられる街づくりや環境との共生を目指します。



循環型社会の実現に向け、クリーン・エネルギーの活用や省エネ・省資源を推進し、企業活動から生じる環境負荷の低減に努めます。



地球環境の保全に向けて、社員の意識向上に努めるとともに、環境関連の法律や規制を遵守し、社会的責任を果たします。

2022年3月改定

フジテレビは、これらを通して持続可能な社会の実現を目指します

温室効果ガス削減への取り組み

地球温暖化防止のため温室効果ガス排出量の削減に計画的に取り組んでいます。

2022年度の本社ビルの二酸化炭素の排出量は17,715(速報値)トンで、25%の削減目標を大きくクリアして約42%削減を達成しました。(2021年度は約41%削減)

●スタジオ照明のLED化

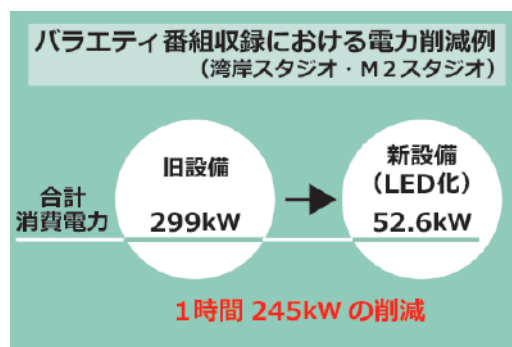
フジテレビではスタジオのLED化を進め一層の節電に努めています。新設備を導入した結果、湾岸スタジオでは1回の収録で使用する電力が従来の5分の1未満に減少しました。

2023年度にフジテレビ本社ビル・湾岸スタジオで、実質再エネ電力100%をめざすことを掲げています。

●社内の『3R』の取り組み

REDUCE[発生抑制] REUSE[再利用] RECYCLE[再生]を呼びかけ、全社で地球環境改善のための取り組みを継続しています。

その結果、**2022年度のごみ分別率は99.6%でした。**



⇒ 1回の収録(本番3時間・リハーサル2時間)で1,225kWhほどの削減

フジテレビ初！ゼロカーボン番組を実現

『EXITの未来を本気で考えるIII～フューチャーランナーズSP～』（9ページ参照）において、初のゼロカーボン番組を実現しました。この番組の制作開始当初から、グリーンメモを共有。ロケ取材や収録、打ち合わせ、移動、編集、弁当にいたるまで、環境負荷の少ない方法を選択することで、二酸化炭素削減に取り組みました。その上で、実際に同番組制作過程で排出されたCO₂を、イギリスのオンラインツール「アルバート」を使用して算定。CO₂排出量を“見える化”することで、環境意識の向上を図りながら番組を制作しました。総排出量は約1トンで、排出量分の再生可能エネルギー由来のJ-クレジットを購入することで実質的にオフセットしました。



30回目を迎えた地球環境大賞

地球温暖化防止やSDGsに取り組み、成果を挙げている企業・団体等を表彰する第30回「地球環境大賞」（主催・フジサンケイグループ）の受賞式が4月28日、秋篠宮ご夫妻をお迎えして東京・元赤坂の明治記念館で開かれました。11の企業・団体等に各賞が贈られ、グランプリにあたる大賞には、累積1,709万本の樹木を植え、生物多様性の保全に貢献した積水ハウスが輝きました。フジテレビは、この顕彰制度をサポートすることで環境と経済、そして社会との調和がとれた豊かな社会づくりに貢献したいと考えています。



地球環境大賞特番を毎年放送

「地球環境大賞」各賞を受賞した企業の取り組みをわかりやすく紹介する特別番組を毎年放送しています。第30回の大賞に輝いた積水ハウスの「5本の樹」計画によって、豊かな生態系が戻りつつある街や、グリーン水素の製造効率を飛躍的に高め“水素の街”作りに挑戦する東レの取り組み等をフジテレビアナウンサーが取材。ハーバード大卒の芸人・パクンは、東京大学を訪れ「生ごみを建材に活用する技術」を取材、最先端技術の数々を紹介しながら「産業の発展と地球環境との共生」の意味を考えました。



『未来を救え！東大VSハーバード大「地球環境大賞2022」』

[フジテレビ2022年6月18日 14:30～15:25放送] (関東ローカル) [BSフジ2022年6月26日 14:00～14:55放送] (全国)

「ふくのわプロジェクト」

要らなくなった衣服を回収・売却し、その収益金をパラスポーツの支援に充てる「ふくのわプロジェクト」に2020年から参加しています。社員食堂の横に専用ボックスを設置し、衣服を回収しています。



(主催：産経新聞社)

2022年5月～2023年3月末までに これまでの合計

605.715kg を回収・寄付 >> 2.4t!

番組セットの有効活用・再利用促進

番組セットのパーツを「共有ユニット」として管理・保管し、複数のデザイナーが活用しています。これにより、セットにかかる材料やコストが削減でき、限りある資源の有効利用につながっています。新しいセットを一から作るのではなく、共有ユニットを活用することで、必要な部分に注力して制作でき、SDGsの目標を意識したテレビ美術の取り組みを推進しています。

共生社会を めざして

For Inclusive Society

社屋イルミネーションAURORA∞を支援の色に点灯 ～アウェアネスカラー～

フジテレビの社屋イルミネーションAURORA∞（オーロラ）を活用し、社会課題への支援の意思を色で表すアウェアネスカラーのライトアップを2015年から継続しています。“誰ひとり取り残さない”社会の実現に向けて、社屋がある臨海副都心の多数の施設と連携して点灯しています。

2022年度

実施したライトアップ一覧

- 4月1日～3日 …………… ● 世界自閉症啓発デー
- 4月22日～24日 ……… ● LGBTQ等 인권啓発
- 6月3日～5日 …………… ● 環境の日
- 7月30日～8月1日 …… ● 水の日
- 9月19日～21日 ……… ○ 国際平和デー
- 9月23日 …………… ● 手話言語の国際デー
- 9月30日～10月2日 …… ● 乳がんの予防啓発
- 10月6日～8日 ……… ● 世界脳性まひの日
- 10月14日～16日 …… ● 臓器移植への理解促進
- 11月1日～6日 ……… ● 児童虐待防止
- 11月11日～13日 …… ● DV・暴力根絶
- 11月14日 …………… ● 世界糖尿病デー
- 12月1日～3日 ……… ● 世界エイズデー
- 1月20日～22日 ……… ● 障害者権利条約発効日
- 3月6日～8日 ……… ● 国際女性デー



オレンジリボンでお祭り＆コラボ



フジテレビが毎年支援している「ドリーム夜さ来い祭り」。11月のオレンジリボン＝児童虐待防止月間に合わせて“オレンジ”色でコラボしました。ライトアップされた社屋をバックに踊り子たちはオレンジのリボンをつけて踊りました。

FNSチャリティキャンペーン ～世界の子どもたちの笑顔のために～



現地の子どもたちと触れ合う堀池亮介アナ

2022年度の支援国モザンビーク共和国は、アフリカ大陸南東部にある世界最貧国のひとつで、人口の約半数が1日1.9ドル(国際貧困ライン)を下回る生活をしており、5歳未満の子どもの40%は慢性的な栄養不良に陥っています。

3年連続で「モザンビーク共和国」を支援

1974年の設立以来、フジテレビ系列全28局とBSフジが協力し、放送やイベント等を通じて募金活動を行い、厳しい環境で暮らす世界の子どものための支援活動をユニセフとともにを行っています。毎年度、支援国を決め、情報番組等で募金への協力を呼びかけています。これまでに約44億円の募金を集め、アジア・アフリカをはじめとする開発途上国の子どもたちのために役立ててきました。2020～2022年度は世界最貧国のひとつといわれるモザンビーク共和国を支援しました。

50周年となる2023年度は、モンスーン被害により国土の3分の1が水没したパキスタン・イスラム共和国を支援します。

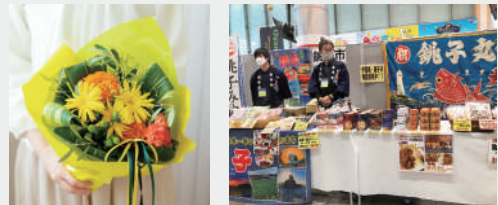
2020～2022年度の最終募金総額

7,377万6,734円

経費を控除した6,809万1,769円が、公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、現地の子どもたちの支援のために使われます。

主な取り組み

- モザンビーク現地取材レポートを10月18日・19日の『めざまし8』で放送
また、BS・CSでも30分番組として放送
- 代金の一部を寄付に活用する「希望のブーケ」をフジテレビフラワーネットで販売
- 10月と2023年1月にフジテレビ内のレストランで、モザンビーク・チキンカレーを提供。代金の一部を寄付
- 12月17日にフジテレビ社屋で「FNSチャリティ産直市」を開催し、関東圏を中心に自治体や地場産業が出展。売り上げの一部を寄付
- 2022年2月、名古屋市内2会場で堀池亮介アナウンサーの取材報告会を開催
- 2023年2月より、フジテレビ内のレストランで、系列局27局が推薦する「FNSチャリティご当地ランチ」を提供。代金の一部を寄付
- フジテレビ製作の映画『Dr. コトー診療所』の興行収入から600万円を寄付



トルコ・シリア地震救援「サザエさん募金」

2023年2月6日にトルコ・シリア国境付近で大地震が発生したことを受け、社内各担当部局、系列局の協力を得て、2月11日から3月15日まで「フジネットワークサザエさん募金」を実施しました。支援金は総額**1億872万1,892円**となり、日本ユニセフ協会に寄付しました。ユニセフを通じて、被災地の子どもたちやその家族のための水、衣類、毛布、教育等の支援に活用されます。



©長谷川町子美術館



災害復興支援

Support for
the Disaster-affected Areas・BCP

ふくしま浜街道・桜プロジェクトを 10年間サポート

「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」は、地震や津波、更に放射能の影響を受けた福島県で「30年後に子どもたちが誇れる桜並木を作りたい」と始まった活動です。

フジ・メディア・ホールディングスはその趣旨に賛同し、2013年度から協賛しています。これまでに植えた桜は1,450本。この桜がすくすくと成長し、福島の地が桜で満開となる日を楽しみに、グループ全体で植樹活動を続けていきます。

フジテレビ ずっとおうえん プロジェクト

フジテレビでは、被災地を「ずっと」
わすれないという思いで、2011年から
ニーズに合わせた被災地復興支
援を行っています。



復興への願いを込めたメッセージプレート



山本賢太アナ、酒主義久アナ

今年で10回目の植樹活動 28人が参加

2023年2月4日、フジテレビをはじめとするフジ・メディア・ホールディングス各社の有志が集い、福島県相馬市で桜の植樹活動を行いました。10回目となる22年度は45本を寄贈し、フジテレビからは18人、他グループ会社6社と合わせて28人が参加しました。

今回、福島県相馬市の国道6号線(通称:浜通り)に植えたのは、高さ2メートルほどの八重桜の苗木30本です。暖かな日差しが降り注ぐ中、復興への願いを込めて植えました。

いかなる場合でも放送を継続するために

BCP対策・防災への取り組み

系列各局と協力して毎年、大規模な災害放送訓練を実施しています。2022年度は「南海トラフ大地震」(高知沖を震源とするM8.0超の地震が発生し、津波が襲来)を想定した訓練を行いました。特に九州・四国エリアを中心とするヘリによる通信や、系列局のスタジオからの中継について検証し、FNN各局の報道機能が低下した際の連携や、視聴者映像の確保等を確認しました。今回見えてきた課題を各局の態勢に反映させ、迅速な災害報道につなげます。



春と秋に全社で「防災ウィーク」を実施

大災害が発生した際にも放送を継続することが私たちの使命です。その使命を果たすために、2011年から「防災ウィーク」と称して社内で働く人々を対象とした防災訓練を毎年3月と9月の年2回、各1週間にわたり行っています。

<2022年度の取り組み>

- スタッフビデオPost投稿訓練 ニュース素材となるビデオの投稿訓練
- 備蓄食の配布 災害時の“食体験”/食品ロス削減にも寄与
- VR防災体験車訓練 東京消防庁の大型車両に搭載された最新のVR技術を使って災害を疑似体験



夏イベントで初めて「防災出前授業」を実施



親子でたのしくソナエル防災

夏のイベント「オダイバ冒険アイランド」(13-14ページ参照)で、親子で学ぶ防災授業を初めて開催しました。「災害にあったときどうするか?」をクイズ形式で楽しく学びます。在宅避難中、電気や水道、通信等ライフラインが止まった状態でどう過ごしたらよいのか、何を備えておく必要があるのか、具体的な方法や必要な数を示して自分事として考えてもらいました。

ガチャピンの人形を使った「毛布担架」も子どもたちに体験してもらい、防災・減災に対する意識向上につなげています。

2023年3月には、テレビ長崎が主催したイベント「Harufes」でも、この防災授業を実施。約100人の親子が参加しました。万が一のことを考えて、日ごろの備えの重要性を改めて認識し、行動につなげてもらえるよう今後も取り組んで参ります。 [2022年8月25日・2023年3月4日実施]

被災地の今とこれからを伝える

総合エンタメメディア「フジレビュー!!」は、2022年に引き続きYahoo!&LINEとの共同企画「#知り続ける」キャンペーンに参加。今回は奥寺健アナ、伊藤利尋アナ、島田彩夏アナが震災当時の状況とメッセージを発信しました。

- #知り続ける <https://www.fujitv-view.jp/topics/知り続ける/>



働きやすい 職場環境

Human Resources
and Well-being

多様性を認め、すべての社員が働きやすい職場環境のために

ワークライフバランス

より柔軟な働き方・多様な働き方を推進することで生産性の向上をめざすとともに、ひとりひとりが仕事とプライベートをともに充実させることができるような制度を設けています。

● 休暇をとりやすい環境整備

- 有給取得奨励日を設け、まとまった休みを取りやすくしています。
- 時間単位での年次有給を取得できる制度も新設

● テレワーク・時差出勤の導入

- 午前9時半から午後5時半までの就業時間を柔軟化
- 育児・介護での完全テレワーク勤務の導入

● 介護支援

- 介護休業
家族に介護が必要になった場合、最大1年間取得可能

● 復職支援

- 復職支援制度
長期の傷病休職から円滑に復職できるようサポート制度の充実
- ジョブリターン制度
配偶者の転勤や家族の介護、育児を理由に退職する社員が対象

● 育児支援

- 養育休職は、最長で小学校就学前まで取得可能
- 養育時短は、1日最大2時間 小学4年生の3月まで取得可能
- ※一定の条件を満たした場合

男性育児休業取得率100%宣言に賛同！

男性育児休業取得率100%の実現をめざして、株式会社ワーク・ライフバランスが推進する「男性育休100%宣言」に賛同しています。この宣言に賛同するのは、NHK・民放キー局で初めてです。



男性の育児休業取得率は、年々増加しており、2022年度は76%でした。

出産・育児にかかわる問い合わせ窓口を設け、女性だけでなく男性社員の育休取得を推進しています。

社員の健康のために

- 定期健康診断、人間ドック、脳ドック、婦人科検診
- 社内健康相談センター（健康相談室、歯科診療室）総合内科・眼科・整形外科等の診療や健康管理、健康相談等
- 生活習慣予防指導を実施

ダイバーシティ&インクルージョン

国籍、学歴、性別を問わず、あらゆる人材を幅広く採用し、その能力を発揮できる環境づくりに努めています。海外の大学を卒業する留学生や、外国籍の方の採用も行っています。障害者雇用についても積極的に行っており、番組制作現場で働く社員もいます。

2023年4月よりパートナーシップ宣誓制度でパートナーになったことを届け出て、会社が認めた場合には、婚姻と同等の権利(休暇取得・結婚祝い金・出産祝い金・子女入学祝い金、福利厚生施設利用時の家族料金の適用等)が認められることになりました。



女性活躍推進

女性が執行役員や局長を勤めるほか、2021年度は初の女性編成部長を起用し、女性目線を活かした編成方針や番組編成を行っています。なお、女性活躍推進法に基づく行動計画として次の2点を目標としています。

目標1 「採用した労働者に占める女性労働者の割合」が30%以上になるように意識して採用活動を進める。

2022年度採用実績
51.9%

目標2 「男女の平均勤続年数の差異」を中長期的な期間でも維持・縮小できるように努力する。

2022年3月末実績 平均勤続年数
男性 **20.42年** 女性 **18.22年**

働きがい・スキルアップ

社員のスキルアップ・学びをサポート

社員の学びをバックアップする環境を整え、社員のスキルアップやモチベーションアップにつながることを目的に研修制度やセミナーを開催している他、以下のような制度を設けています。

● 海外研修・留学制度

本人が海外での企業研修・留学・その他の活動を希望し、会社が認めた場合は、退職とせず、所定の勤務とみなす制度を新たに導入。

● インターンシップ制度

採用活動とは別に、仕事の理解を深めてもらうためアナウンサー、バラエティ、ドラマ、報道、情報、技術部門等で学生に向けた就業体験を行っています。

● マルチワーク制度

アナザーワーク(副業)やエクストラワーク(通常業務の外部展開)を可能にすることで、社員が自己の能力や経験を活かし多様なキャリアを形成する機会を提供しています。

フジテレビカレッジ

「社員ひとりひとりが成長し続け、会社も持続的に成長する」姿をめざして、フジテレビで働く人の新しい学びの場として「フジテレビカレッジ」を開校。「社内外の今起きていること、今知るべきこと、今身につけるべき武器」を自律的に学ぶ機会を提供しています。



視聴者とともに

With Our Stakeholders

“自己検証”番組を30年以上放送

『週刊フジテレビ批評』

テレビやメディア業界に関わる様々なトピックスを視聴者に届けるこの番組は、民放初の自己検証番組として1992年4月にスタートしました。視聴者から寄せられた意見や「番組審議会」の審議内容、専門家による番組批評とともに、ドラマやバラエティ、スポーツ中継やニュース制作の舞台裏を披露。また放送の最新技術やBPOの見解発表等テレビにまつわる事柄を解説し、“テレビ”をより深く理解し、「メディアリテラシー」の向上につながる番組を追求しています。また近年は、メディアにもその責務が問われている防災やSDGsに関する発信にも力を入れています。

●公式サイト <https://www.fujitv.co.jp/newhihyo/> [毎週土曜 5:30 ~ 6:00 放送]



視聴者の声を聞く取り組み

番組審議会

番組審議会は放送番組の適正を図るため、放送法に基づき設置されている審議機関です。2023年4月現在、弁護士、脚本家や教育者等有識者8人で構成されています。月に1回、フジテレビで放送されたあらゆるジャンルの番組を対象に、委員から意見や指摘を頂き、議事内容は制作現場にフィードバックされ、番組づくりに活かされています。また個別の番組に限らず、放送全般についての質問やご意見を頂き、議事録ダイジェストとして社内全体に共有しています。概要はホームページに掲載する他、『週刊フジテレビ批評』内でも放送しています。



社外モニター制度

一般視聴者の方から社外モニターを募集し、番組に対する意見を伺っています。アンケート結果や詳細なレポートは番組担当者に届けるとともに、イントラネットへの掲載を通じ、社内全体に共有しています。また、月に1度「モニター会議」を開き、モニターと制作担当者が番組について意見交換を行っています。視聴者から直接「生の声」を聞く機会は貴重で、その声が番組に反映されることも少なくありません。

ご意見・お問い合わせ

視聴者センターは、フジテレビの「窓口」として、視聴者のみなさまからの番組等への問い合わせ、ご感想、ご意見をお伺いし、番組制作や各種サービスの向上に役立つよう、貴重な「視聴者の声」としてレポート化、それを全役員、社員に情報共有しています。

2022年度

電話 視聴者対応件数 92,655件
メール 投稿件数 263,671件

適切な放送を届けるために

放送コンプライアンス

番組基準を定め、基本的人権の尊重をその基本方針のひとつとしています。取材、番組制作、放送等において、人権を侵害することがないように取り組んでいます。近年の人権意識の高まりや価値観の多様化に対応することを目的とし2023年4月に放送基準が大幅に改正され、それを勉強会等を通じて社員・スタッフに周知しています。更に放送人としての基本的な規範をまとめた「放送倫理手帳」と「放送基準解説書」(一般社団法人日本民間放送連盟発行)を全社員・スタッフに配布しています。また「放送コンプライアンス委員会」(月1回)を筆頭に、階層ごとに全部で3つの会議を定期的で開催し、迅速な情報共有からトラブル防止の検討まで、活発な意見交換を行っています。



「放送倫理手帳」と「放送基準解説書」

ソーシャルメディアポリシー／SNSガイドライン／SNS対策部

フジテレビでは「ソーシャルメディアポリシー」をホームページで公開し、会社としてSNSを取り扱う方針や基本姿勢を表明しています。SNSでのトラブルは番組や社員・スタッフのみならず出演者にも及ぶことから、適切にSNSを活用できるよう「SNSガイドライン」を社内向けに策定しています。フジテレビ社員は「SNSガイドライン」がブックマークされた社用携帯電話を常時携帯しています。2021年3月からSNSに関する様々な問題に対応する専門部署として「SNS対策部」を設立。SNSトラブルに対して弁護士・臨床心理士・精神科医等、法律及びメンタルケアの各専門家もサポートする社内体制を備えています。フジテレビの番組や出演者、社員・スタッフに関するSNS投稿を24時間365日検知するモニタリングも行っており、発生した問題には迅速に対処しています。また、有識者による社内勉強会を定期的で開催するなどSNSリテラシー向上に日々努めています。

●ソーシャルメディアポリシー <https://www.fujitv.co.jp/company/socialmediapolicy/>

ソーシャルメディアポリシー

1. 当社がお約束すること

当社は、ソーシャルメディア上の当社公式アカウント及び当社の役員個人の個人(私的)アカウントにおいて、次の各号に定める事項をお約束いたします。

- ① 法令遵守すること
- ② 第三者の著作権その他の知的財産権、名誉権及び肖像権に配慮すること
- ③ 発信した情報は不特定多数の人に閲覧されること及び一度公開された情報はインターネット上から完全に削除できないことを自覚し、正確な情報発信を心掛けること
- ④ ソーシャルメディアを通じて得られたものを、公平公正な報道、今後の番組やコンテンツの制作、イベント運営などの当社業務に活かし、反映していくこと

2. 皆様にお伝えしたいこと

- ① 当社の役員個人(私的)アカウントにおいて発信される情報は、当社の公式発表及び公式見解ではありません。
- ② 各ソーシャルメディアにおける情報は、発信・投稿時点のものであり、その後変更、削除の可能性ががあります。
- ③ 当社は公式アカウントにお寄せいただく発言、発信、投稿等に対して、すべてにご返信することはいしかなしません。
- ④ 各ソーシャルメディアはそれぞれの運営事業者によって運営されており、運営状況、利用方法や技術的な制限等には一切お答えすることができません。
- ⑤ 誹謗中傷、なりすまし行為、当社、他の利用者その他の第三者の権利を侵害する行為、公序良俗や法令に反する行為、犯罪に結びつく行為やその他のおそれのある行為、不適切な投稿等を行うことはご遠慮ください。

ガバナンス・マネジメント体制

フジテレビでは放送の公共的使命と社会的責任を認識し、すべての人が平和に共存し、心身ともに健やかな生活を維持できる世界の実現に努めます。基本的人権の尊重等、民主主義の原則を貫き、公平かつ平和で自由な社会を守るために努力します。そのためにコーポレート・ガバナンス／内部統制／コンプライアンスの仕組みを整備し、実効性を高め、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上めざして、視聴者や社会からの信頼に誠実に応えて参ります。

●コーポレート・ガバナンス / 内部統制
<https://www.fujitv.co.jp/sustainability/worklife/governance.html>

●コンプライアンス
<https://www.fujitv.co.jp/sustainability/worklife/compliance.html>

コンテンツのバリアフリー

字幕放送

聴覚障害者やテレビの音が聞こえづらくなった方々にも番組を楽しんで頂くために、テレビの音声を[文字]にして画面に表示する字幕放送を行っています。ニュース等の生放送では、[生字幕=ほぼリアルタイムで字幕を付けること]の付与を行っています。

2021年度実績 ●付与可能時間に対する付与率 **100%** ●総放送時間に対する付与率 **68.7%**

解説放送

目の不自由な方々にテレビを楽しんで頂くために副音声を使って画面の解説を行う解説放送を行っています。

2021年度実績 ●付与可能時間に対する付与率 **18.3%** ●総放送時間に対する付与率 **7.0%**

主な受賞番組・作品

2022年5月～2023年4月受賞

国際メディアコンクール・ニューヨークフェスティバル 2部門で銅賞 2023年4月受賞

ドキュメンタリー・Social Issues(社会問題)部門銅賞

『ザ・ノンフィクション 東京デリバリー物語～スマホと自転車とホームレス～』

[2022年10月9日 14:00～14:55放送]

ドキュメンタリー・BIOGRAPHY/PROFILES(人物/伝記)部門銅賞

『NONFIX ラーメン二郎という奇跡～総帥・山田拓美の“遺言”～』

[2022年3月30日 24:55～25:55放送]



『ザ・ノンフィクション 東京デリバリー物語～スマホと自転車とホームレス～』



『NONFIX ラーメン二郎という奇跡～総帥・山田拓美の“遺言”～』

TVer AWARD2022大賞を受賞 2023年3月受賞

ドラマ大賞

『silent』

ドラマ『silent』は、関連コンテンツを含めた再生数が計7,300万回を超え、TVerの新記録を塗り替えるなど歴史に残る作品となった。

特別賞

『ミステリと言う勿れ』『ワンピース』『ガリレオ』



ABU賞 審査員特別賞 2022年11月受賞

『ザ・ノンフィクション ボクと父ちゃんの記憶～家族の思い出 別れの時～』

[2021年10月17日 14:00～14:55放送]

ルミエール・ジャパン・アワード2022 4K部門準グランプリ 2022年11月受賞

『TimeTrip鎌倉幕府～悲劇の将軍と夜叉王の面～』

[2022年1月3日 BSフジ 4K放送]

第38回ATP賞テレビグランプリ 最優秀新人賞

2022年7月受賞

『ザ・ノンフィクション』

山奥ニートの結婚～一緒に赤ちゃん育てませんか～』

演出担当 竹内みなみ(スパークル)

[2022年2月20日 14:00～14:55放送]

日本ITU協会賞 奨励賞

2022年5月受賞

保谷和宏(フジテレビ技術開発部)

4K8Kコンテンツのファイル交換に関する

勧告の策定等国際標準化に貢献

SDGsアクションレポート2023 編集方針

本レポートは、2022年度にフジテレビが「次世代育成」「地球環境」「共生社会」「災害復興支援」のために行った活動をまとめたものです。本業である放送事業とエンターテインメントを活かして、フジテレビらしさを大切に多岐にわたる取り組みを行ってきました。活動内容は【フジテレビ・サステナビリティサイト】を通じて随時公表していますが、本レポートはより読みやすく、みなさまにご理解頂きやすいよう編集したものです。SDGsの目標達成に向けて実施した取り組みを知って頂くきっかけになれば幸いです。



フジテレビ・サステナビリティサイト <https://www.fujitv.co.jp/sustainability/>

対象期間 2022年度(2022年4月1日～2023年4月2日)

対象範囲 本レポートにおける対象範囲はフジテレビを基本とし、一部の活動実績はフジ・メディア・ホールディングス、フジサンケイグループとして実施したのもも掲載しています。

発行: 株式会社フジテレビジョン Fuji Television Network, Inc.
〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号
編集: CSR・SDGs推進室 ✉ csr.ss@fujitv.co.jp

